

<はじめに/提案の趣旨>

- 都心部に残された貴重な大規模な開発用地として、単純入札による切り売りを防ぐため、100周年を迎えた九州大学の跡地として、100年先を見据えたシンボルとなるまちづくりとなるよう、アーバンデザインを行う。
- ・アーバンデザインは、多くの開発事業者が参画したり、10年単位で段階的に開発が進む場合を考慮し、社会情勢に合わせて 開発宅地ごとに都市機能や事業内容を適切に誘導するとともに、一体的な街並みとなるよう建築ガイドラインを導入する。
- ・アーバンデザインは、大学とともに形成された周辺市街地やコミュニティとの連続性と一体的な生活環境の質の改善を意識するものとする。
- ・キャンパスの歴史的建物やシンボル施設は保存活用を前提とし、地域や新たなまちの居住者・ワーカーが積極的に活用できる ものとする。
- ・公益的施設は地域の賑わいを生む目玉集客施設と位置付け、市内の老朽化した既存施設(美術館・図書館ほか)を移転・整備する。
- ・既存のマストラを活かしながらも、周辺地区も含めた更なるポテンシャル向上を図るよう追加の整備を行う。
- 国道3号線や鉄道駅からアプローチしやすい貝塚公園の高度利用を図り、災害時の防災活動拠点として活用する。

<提案コンセプト> アジア都市FUKUOKAのシンボルとなる新時代の町割 流れとコミュニティづくり

HAKOZAKI



安土桃山時代に戦で荒廃した博多を豊臣秀吉 が復興させるべく町づくりを行い、七つの 「流」に区分けしたのが「太閤町割」。

町割りは10町(109M)四方と定められ、都市軸となる市小路(一小路)中心に、統一的な区画を整備し、幹線道路を東西に三本、南北に四本走らせ、区画割りを行った。町割りを含めた通りごとのコミュニティ単位である「流れ」は、現在の博多山笠の曳山を運営する街単位として受け継がれている。



(博多祇園山笠文献資料・WEBを参照)

アジア都市FUKUOKAのシンボルとなる新時代の町割 流れとコミュニティづくり



街区割「流れ」の骨格となる一小路/ストリートパーク



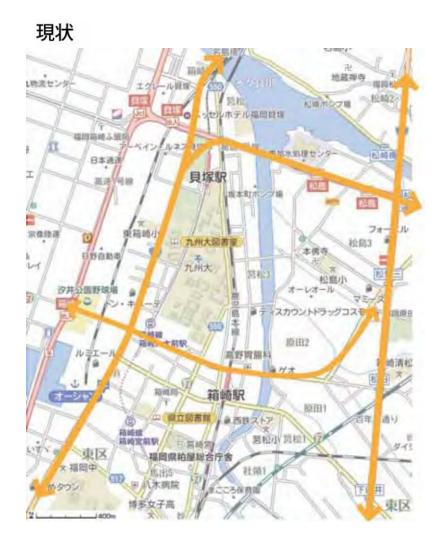
アジア都市FUKUOKAのシンボルとなる新時代の町割 流れとコミュニティづくり

Planning

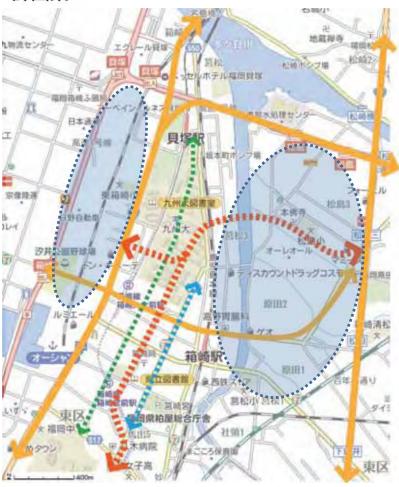
- ①キャンパスで分断された東西方向の交通ネットワークの形成
- ②周辺地区の環境改善を促す街路ネットワークの整備
- ③地区のポテンシャルを高める鉄道インフラの見直し
- ④歩行回遊性を高めるパーソナルモビリティの導入
- ⑤街並みをつくるデザインガイドラインの策定
- ⑥都市の賑わいをつくる公共施設の再編整備/県立美術館、東区役所、新図書館他
- ⑦段階的整備計画の実施/スマートグロウス



①キャンパスで分断された東西方向の交通ネットワークの形成







②周辺地区の環境改善を促す街路ネットワークの整備



イメージ写真(WEBより転載)

③地区のポテンシャルを高める鉄道インフラの見直し







(WEBより転載)

アジア都市FUKUOKAのシンボルとなる新時代の町割 流れとコミュニティづくり



④歩行回遊性を高めるパーソナルモビリティの導入





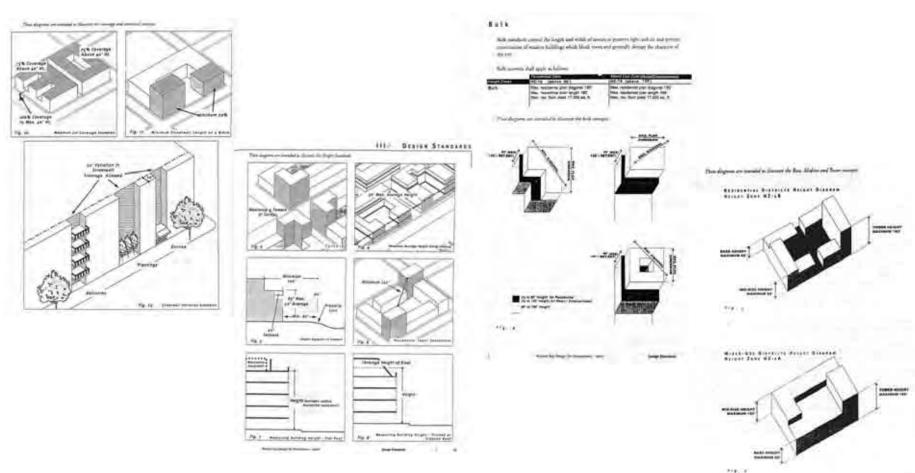




JR箱崎駅

(WEBより転載)

⑤街並みをつくるデザインガイドラインの策定



参考) SF ミッションベイデザインガイドライン



⑥都市の賑わいをつくる公共施設の再編整備







(WEBより転載)



⑦段階的区画整理の設定/スマートグロウス



アジア都市FUKUOKAのシンボルとなる新時代の町割 流れとコミュニティづくり

<各学部移転計画に沿った段階的区画整理事業の実施>

1 期事業(H26~30)/HAKOZAKI地区(施行区域20ha)

	従前	従後
宅地	18.5ha	9.3ha
道路	1.5ha	6.7ha
公園	-	0.5ha
その他公共用地	-	3.5ha

2期事業(H30~)/KAIZUKA地区(施行区域27ha)

2 初		
	従前	従後
宅地	22.9ha	14.7ha
道路	4.1ha	6.4ha
公園	-	1.5ha
公共用地	-	3.7ha
駅前広場	-	0.7ha

<都市計画想定>

	現状	従後
用地地域	第1種住居	商業
建ペい率/容積率	60%/200%	80%/300%
高度地区	20M	50M
地区計画	なし	あり



